

日本地球電気磁気学会会報(第72号)

1976年11月15日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16(〒113)

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111(内線6476)

振替 東京 3-4860

目 次

1. 学会役員選挙について
2. 第60回総会報告
3. 新入会員
4. 運営委員会報告
5. 次期(第61回)総会・講演会
6. 第11期日本学術会議会員選挙について
7. お知らせ
8. その他

1. 学会役員選挙

下記により次期学会役員選挙を行ないます。同封の投票用紙(2枚)、封筒を用いて御投票下さい。郵便料金は受取人払いとなっておりますので、切手を貼らずに御投函下さい。

投票締切日

12月15日(水)

前回と同様に、委員長、評議員、運営委員の投票を同時に行ないますので、投票用紙を間違えない様御注意下さい。なお、現運営委員中次の3名は内規第1条2の規定により留任を辞退しております。

松浦延夫

国分征

玉尾孜

投票に当っては、同封の選挙内規ならびに会員名簿(地区別)を御参照下さい。

2. 第60回総会・講演会

第60回講演会は九州大学のお世話で10月25日～28日の4日間、福岡市民会館で開催されました。

第60回総会報告

10月27日午後、第60回総会が松浦延夫会員を議長として開かれました。

- 1) 大会委員長挨拶(広野求和九州大学教授)
- 2) 運営委員会報告(佐藤運営委員)
- 3) 上山委員長挨拶

4) 次期開催地

国立極地研究所に決定した。

5) 次々期開催地

京都大学工学部にお世話いただきたいとの提案があり、検討していただくこととした。

6) 謝辞（長島評議員）

3. 新入会員

前回以降下記の方々が入会されました。

前田 耕一郎（兵庫医大） 松田 准一（神戸大・理）

山本 博聖（立教大） 佐藤 高晴（阪大・工）

三浦 彰（東大理） 千原 秀昭（阪大・理）

10月末日現在の会員数は452名となりました。

4. 運営委員会報告

- (1) 昭和51年度文部省科学研究費審査委員候補者として、学会内規により運営委員の投票の結果、次の会員を推せんしました。（順不同）

超高層物理学分野

固体地球物理学分野

上山 弘

小林 和男

広野 求和

長島 一男

- (2) 昭和51年度JGG誌に対する文部省出版補助金として168万が交付されました。

(3) 特定研究分野の申請について

運営委員会では昨年から本学会が主たる役割を担うような特定研究分野を申請することについて検討を行っており、検討の経過はその都度会報(66,70号)でお知らせしています。70号会報(6月12日付)では、帝京大学田中信徳教授を代表者とする特定研究分野「生命の起源と進化」の申請準備の状況を見守りたい、としましたが、この申請は学術会議の段階で不採択となりました。その理由として、テーマ自体は受け入れられながらも、広領域すぎる点が指摘されました。

そこで運営委員会としては、本学会を中心として関連分野の協力を得やすい形の特定研究分野の申請を再度考えることに致しました。御意見をお持ちの方は、委員長又は運営委員にお伝え下さい。

5. 次期開催地について

第61回総会ならびに講演会は極地研究所のお世話で5月11日(水)~14日(土)の4日間、下記の会場で開催の予定です。

板橋区立産業文化会館

6. 第11期日本学術会議会員選挙について

1977年11月25日を締切日として学術会議会員選挙が行なわれます。前回会報でもお知らせしましたが、有権者登録の受付期限は

1977年3月31日

となっております。

日本学術会議中央選挙管理委員会より注意事項が送られてまいりましたので以下に転載しました。新らしく登録されたり、異動を届けられる会員の方々は御留意下さい。

中央選挙管理委員会よりのお知らせ

1 前回（第10期，昭和49年）の選挙の有権者の方へ

前回の選挙の有権者については，前回提出のカードにより，本年資格審査が行われました。

これに関し，日本学術会議中央選挙管理会から登録用カードを再提出されるよう通知のあった方以外の方は，すべて引き続き，有権者名簿に登録されますから，改めて登録用カードを提出する必要はありません。

ただし，前回の登録における所属以外の部又は専門で今回の登録を求めようとする方は，登録のしなおしをする必要がありますから，様式第2の「所属部又は専門変更届」により，登録用カード用紙を請求してください。

2 今回（第11期，昭和52年）の選挙に有権者となることを希望される方へ

(1) 今回の選挙に新たに有権者となることを希望される方で，大学・研究機関等に所属される方は，中央選挙管理会から大学・研究機関等に対して「登録用カード用紙請求者名簿」の提出方を依頼いたしましたから，なるべく所属の大学・研究機関等から提出の名簿によって登録用カード用紙を請求してください。

なお，名簿によって請求される場合は個人からの請求は不必要ですから，大学・研究機関等と個人の両方から重複して請求しないように，特に注意してください。

(2) 新たに有権者となることを希望される方で，大学・研究機関等に所属しているが大学・研究機関等から提出した「登録用カード用紙請求者名簿」にカード用紙請求者として氏名を記載されなかった方は，様式第1により個人で登録用カード用紙を請求してください。

3 登録用カード用紙の送付及び提出について

登録用カード用紙は、請求あり次第「登録用カード用紙請求者名簿」提出の大学・研究機関等に対しては、一括して送付します。また、個人で請求の場合は、直接、請求人あてに送付します。

その際、第11期会員選挙説明書及び登録用カード用紙提出用の封筒を同封いたします。登録用カード用紙に所要の事項を記入の際は、選挙説明書の「登録用カード記載上の注意」を十分お読みになったうえで記入してください。また、登録用カード提出の場合は、提出用の封筒を使用してください。

第11期会員選挙のための登録用カードの受付期限は、昭和52年3月31日ですから、同日までに中央選挙管理会に必着するように提出してください。なお、昭和52年4月1日以降に到着した登録用カードは、次回（第12期、昭和55年）会員選挙の登録用カードとして中央選挙管理会で保管します。

4 有権者等の異動の届出について

有権者は氏名、住所（住居表示の変更を含む）、本籍、勤務機関及び職名、勤務地等のいずれかに異動があったとき、又は博士の学位を取得した場合にはそのつどすみやかに、様式第3により、「有権者異動届」を中央選挙管理会に提出してください。これを怠ると有権者の権利を行使できないことがあります。

また、新たに有権者となることを希望される方で、登録用カードを提出し、その後上記の異動があった場合も、異動の届を励行してください。

なお、有権者が死亡した場合は、その旨を遺族又は関係者から届け出てくださいます。

様式第1 (B 5 判)

登 録 用 カ ー ド 用 紙 請 求 書

(ふりがな)
氏 名 ㊟
住 所 (郵便番号)

様式第2 (B 5 判)

所 属 部 又 は 専 門 変 更 届

昭和 年 月 日

日本学術会議中央選挙管理会 御 中
(現登録の所属) 第 部 学 地方区
(ふりがな)
氏 名 ㊟

私は、現在の専門を変更いたしたいので登録用カード用紙を請求いたします。

様式第3 (B 5 判)

有 権 者 異 動 届

昭和 年 月 日

日本学術会議中央選挙管理会 御 中
第 部 学 地方区
(ふりがな)
氏 名 ㊟

下記のとおり異動がありましたからお届けします。

事 項	(新)	(旧)
1 氏 名		
2 住所 (郵便番号)		
3 本 籍		
4 勤務機関及び職名		
5 勤務地 (郵便番号)		
6 博士の学位	①学位の種類 ③授与年 昭和 年	②授与大学 ④所属学会

(注) 新たに博士の学位を取得した者は、学位の種類、授与大学、授与年とともに必ず所属学会名を記入すること。

備考 様式第1, 第2, 第3とも、用紙は「はがき」を用いても差し支えありません。

7. お知らせ

(1) 宇宙研主催シンポジウム (12 月以降)

i) 大気球シンポジウム

12 月 9 ~ 10 日

世話人 西 村 純

広 沢 春 任

ii) 電離圏シンポジウム

12 月 13 ~ 14 日

世話人 伊 藤 富 造

iii) スペースプラズマ研究会

12 月 16 ~ 17 日

世話人 河 島 信 樹

(2) 極地研主催 南極ロケットシンポジウム

世話人 等 松 隆 夫 (東大理)

平 沢 威 男 (極地研)

木 村 磐 根 (京大工)

来る昭和 52 年 1 月 27 日 (木) 東京虎ノ門教育会館において、標記のシンポジウムの開催を予定しております。今まで昭和基地で行われたロケット実験、IMS 期間中の実験結果、将来計画などにつき、講演のお申し込みをお願い致します。

申込〆切 12 月 20 日

宛 先 国立極地研 平 沢 威 男

(〒 173 東京都板橋区加賀 7-9-10)

TEL 03-962-4711

尙講演の申込をなされない方でも、上記シンポジウムにご興味をおもちの方にはプログラムをお送り致しますので、上記宛先までご連絡下さい。

(3) 日本学術会議第 71 回総会報告の要約が届いております。御関心のおありの方は学会事務所まで御連絡下さい。

8. そ の 他

第60回講演会は開催機関の御努力により、第1、第2両会場共非常に良い環境の中で進めることが出来ました。今回の御経験から北村会員が以下の寄稿を下さいました。今後会員の皆様方が講演なさる時の参考にして頂ければと存じます。

学会講演をより円滑にするために(投稿)

今回の福岡学会講演のスライド操作は院生によってなされたが、事後の反省会の時に、次のような要望と批判が出された。

(1) スライドの上下印や番号のうち方等を統一して欲しい。スライド係自身の判断で、上下裏表を判定しなければならなかった場合が屢々あり、特に、小さい字、図のみの場合は判定困難である。

(2) 11分のもち時間に最高27枚のスライドを提出した講演者がある。結果として、どんどんスキップしたが、もっと精選しておくべきである。

以上の(2)については講演者自身の自覚に待たねばならないにせよ、(1)については学会として、何かフォーマットを定めるべきではないかと考えられる。

(北村泰一記)

また今回は講演予稿集についての次の様な貴重な提言を一会員の方から御投稿頂きました。

講演予稿集について(投稿)

『以前から講演会のたびに予稿集を購入しているが、いつもこの内容では高

すぎると云う感を深くする。今回の予稿集をみると、与えられた紙面の半分以下で詳細は講演時にと云うのが30件近く存在している。中には白紙のものまである。全部で170件中のものであるから約20%である。こんなものはプログラムに簡単に内容を紹介するのと同じで、予稿集などに出すにはもったいないのである。この様な予稿が出るのは予稿が結局自分の役にたたないと云うことからいゝかげんに書いておけばと云うことになるのだと思うが極論だろうか。この点は人間の弱点であり、強制的に発表者にも役にたつような方法をとる以外に改良の方法はない様に思う。例えば、別刷を何十部か発表者に渡し、役に立ててもらいと云うような方法であるがどうだろうか。一度みんなでも考えてもらいたいと思う。』

内容は原文通り転載致しました。投稿下さった会員は氏名を明記されておりますが、転載にあたっては一会員とさせて頂きました。

IAGA 事務局よりお知らせ

1977年8月22日-9月3日米国シアトル市で開催される IAGA/IAMAP Joint Assembly に関する Second Circular は現在米国で印刷中であり、近々配布されます。このサーキュラーの内容はシンポジウムやセッションの内容、アブストラクト提出(締切日は1977年3月31日)に関する注意に限られており、登録・宿泊申込・旅行案内等については改めてサーキュラーが出されることになっています。

また IAGA 事務局では IAGA News No.15 を11月末に発行して、これまで News を受取っておられた方々には配布します。新しく IAGA News を入手されたい方々は、欧文宛先と邦文宛先を明記して

〒113 東京都文京区弥生 2-11-16 東京大学理学部地球物理研究施設

福島 直 あて御申出下さい。